

こじか荘かわら版 春



観音様、今年の花見もおかげさまで。今年の花見も快晴です。

新年度挨拶

春光うららかな季節を迎え、例年ではお花見会や旅行など、様々な行事を通じて人の交流が増える時期となりました。しかしながら、未だ終息の兆しが見えない新型コロナウイルスによって、優先した対応を続けることとなり、皆様方には何かとご心配をおかけしますが、ご了承いただけますようお願い申し上げます。

このような中においても、特養ではご利用者が安心して心豊かな日々を送っていただけるようにと、各種専門職が力を合わせ工夫を重ねているところでございます。また、デイサービスと居宅介護支援事業所では、過疎化が進む吉舎・三良坂地域に於いて、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるように、引き続き取り組んでまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

こじか荘施設長 糸原征司

職員紹介インタビュー

華やかな大阪からのUターン... 優しい介護士は現在母に!!

ヨロシクお預まい至ります。

介護士 田原史子

—— 出身は岡山県と聞きました。

田原 はい。岡山の県北、真庭市の出身です。こちらと同じような山の中で、1つ上の姉、2つ下の妹との3姉妹で育ち、真庭には高校を卒業するまでいました。

—— 高校は普通科ですか？

田原 いいえ。その当時ずっと机に座って勉強するのが苦手だったので商業科に進みました。少しでもパソコンなど専門教科で気分が紛れることや、1つ上の姉がその高校に通っていたこと。あと動機は不純かもしれませんが、カッコイイ憧れの男子の先輩が通っていたこともあり、すんなり進学を決めました。今でも仕事でパソコンを使用することがありますが、ベースとなる知識は概ね高校時代に習得できました。わからないことがあっても、当時同校へ通う姉が親切に教えてくれました。

—— 卒業されてからはどう言う方向に進まれました？

田原 ずっと片田舎で育ち、「都会で暮らしたい。」との思いから大阪で就職しました。結局大阪には15年間住みましたが、最初の8年くらいはありとあらゆる仕事を体験しました。スーパー、倉庫業、うどん屋、パチンコ店などで働き、住み込みも下宿生活も経験しました。この頃はよく働くけど、よく遊びました。仕事で遅くなくても夜な夜な心斎橋のネオンに吸い込まれるように出掛けていきました。

—— 大阪で最後に就職したのが建材会社の事務員で正社員の採用となりました。仕事も安定しており長く勤めることになりましたが、入社から7年が過ぎた頃、地元で姉が嫁ぐことになりました。妹はそれより早く結婚しており、「両親と共に生活できるのは独身の私だけ？」との思いが強くなり、次第に岡山へのUターンを考えるようになりました。まあ姉の縁談がまとまる頃から「あなたも早く落ち着きなさいよ。」みたいなことを両親から言われていましたし...

—— 心機一転、地元へ帰ってからはどのような仕事に就かれましたか？

田原 はい。ここで初めて介護の仕事に携わりました。最初の1年半は病院での介護助手に配置され、ご利用者(患者)の検査室への誘導や、物品の補充、清掃など介護と言っても間接的な業務をメインにしていました。その後同じ系列のグループホームに異動になり、直接ご利用者の方と関わるようになりました。

—— 初めての介護業界はスムーズに入れましたか？

田原 最初の病院での業務はとにかく時間に追われることが多く、バタバタとした毎日でした。時折接するご利用者の方とも会話を交わす時間も無いほどでした。ところが異動したグループホームでは「とにかくご利用者の隣でゆっくり話を聞いてあげてほしい。」と一番に言われました。これに最初はすごく戸惑いました。大阪時代から時間に余裕が無い仕事が多かったため、椅子に座ってゆっくり過ごす時間がかえって落ち着かないものでした。でも次第に高齢者の方と過ごす時間の中で、傍らに寄り添ってしっかりと傾聴することの大切さを実感していきました。他愛もない会話から人間関係が築かれ、私自身も楽しく過ごせるようになりました。少しずつ仕事にやりがいも感じはじめ、「今後も介護の仕事で身を固める」と決心し、3年間の実務経験を満たした後に介護福祉士の資格を取得しました。

—— その後なぜ地元岡山から三次の地へ？

田原 介護福祉士の勉強をしていた頃に友達の紹介で現在の主人と出逢いました。お互いいい歳だし交際から結婚まではあまり時間が掛からずスムーズに進行しました。ただひとつ気掛かりだったのは、やはり両親のことでした。主人も実家の後を継がねばならず、「結婚＝三次へ嫁ぐ」のが条件でした。両親と過ごすためにUターンしたのに離れることに責任を感じていましたが、両親は結婚をととても喜んでくれ、「家や親のことよりも自分の幸せを優先しなさい。」と力強く背中を押してくれました。

—— 良かったですね。現在は三次で2児の母となりました。

田原 はい。これまでの経験や人とのめぐり逢わせ、家族の理解もあり幸せに過ごせています。特にまだ幼い我が子と触れ合い、成長を感じる事が至福の時です。現在の仕事で培ったコミュニケーションスキルを育児の面でも活かして行けたらいいなと考えています。今は仕事と子育ての両立真っ最中ですが、子どもが成長し、生活に余裕が出来たら、以前から大好きだったB'zのライブも行きたいですね。



高校卒業からのとても活力ある様々な経験は、現在を支える下地作りだったのでしょうか。Uターンからの三次への移住のお話も家族愛に溢れ、ご自身も人を愛する介護士へ自然と導かれたのではないのでしょうか。そして現在は2児の母。どんなに忙しくても目を閉じると顔(まぶた)に浮かぶかわいい我が子の姿。愛を振りまき、愛を受け取る生活がこれからもずっと続くことでしょう。

ボランティア

1月 28日 鯨谷美紀枝 様(散髪)

2月 25日 鯨谷美紀枝 様(散髪)

3月 25日 鯨谷美紀枝 様(散髪)

編集後記

毎年「春号」の誌面を華やかに飾るご利用者の桜見物の様子ですが、写真撮影が無事に終わるまでは気が気ではありません。まず、3月に入ると大まかに開花時期を予想します。ほぼ3月終わりか4月の最初ですが...そして曜日は特養の業務上、日曜日か木曜日の午後が望ましいところで。そのタイミングに「天気」「開花状況」がキツリはまることで、華やかで明るい写真が撮影できます。「これだけの条件が揃わなければ...」と毎年不安な気持ちで春を迎えますが、何故か毎年あっさり条件をクリアできています。ちなみに今年も4月の第一日曜日、「快晴」の「ほぼ満開」でした。これからも毎年、好条件でご利用者の皆さまが桜を見ることが出来ますように!!

広報委員 坂本康児



特養

「二月初三日の節分行事では、健康への願いを込めて、豆まきならぬ「玉投げ」をして鬼（疫病）退治をしました。皆さんの願いが叶えられ、春が来たのを心待ちにされている声を耳にしました。これから季節を感じる利用者様の願いが叶えられますように、感染予防を行います。ありがとうございます。」と何れも前より、



花見会



ひな祭り

こじか荘のひとコマ



節分祭



窓越し面会

春の彼岸法要



米寿

誕生会

喜寿



節分祭



クラブ活動 (ちぎり絵)



午後からの「運動」の様子

面会の制限について
 新型コロナウイルス感染状況を鑑み、当面の間、面会は「窓越し面会」を継続させていただきます。ご協力をお願い致します。

通所

「心願を叶えたい。デイサービスでは節分祭を行いました。作品は玄關ホールなどに飾り、熱いお茶を飲みながらおしゃべりしています。自然に笑顔がこぼれます。感染対策を行います。この時期は自然に笑顔がこぼれます。感染対策を行います。」

新しい職員を紹介します！！

2月よりこじか荘で介護士として勤務させていただいております。一日も早く仕事を覚えて、ご利用者の皆様のお役に立てる様に、笑顔で元気一杯、毎日一杯ががんばります。よろしくお願いいたします。



介護士 池田菜見子

趣味は子どもと散歩をすることですが、時々バツゲームのような距離を歩いています…猫を撫でてストレスを発散します。早く仕事を覚えること、職員の方々と顔が少しでも早く一致するよう頑張ります。



調理員 村竹真理

私は、とても大雑把なところがあありますが、仕事はルールを守って先輩職員の指導を受けて、一生懸命がんばります。ご利用者の皆様のことを一番に考えて、介護をさせていただきます。よろしくお願いいたします。



介護士 森本・ジャケリン ガルシヤ

初めまして。滑菜(なめらあおい)です。通所介護事業所の介護士として四月から勤めさせていただいています。介護職としてはまだ経験が浅いのですが、先輩方を見て頑張っていきます。趣味は野球です。小学校から高校までしていました。子どもが3人いるので、大きくなったら一緒に野球をするのが夢です。



介護士 滑 葵